

# 目黒寄生虫館月報

昭和35年2月10日発行・毎月1回10日発行

第12号

昭和35年2月

巻首論文

## 目黒寄生虫館をたずねて

加納六郎

亀谷先生はじめ、寄生虫館の皆さんとは、もう数年の御交際になる。そして私の専門分野の事については時々御相談にも乗っている。

それなのについ最近まで、寄生虫館を訪問しなかった。近いから何時でも行けると思っていたのがいけなかったのである。昨年の暮に急に思い立って見学させていただいた。先ず建物の立派なのに驚いた。中に入ってみると、標本の豊富なのにほざること乍ら、その整理がよく出来ているのに敬服した。標本に関連しての写真や説明も実に立派なもので、専門家達の参考になると同時に、素人にも納得のゆく様に親切に解り易く出来ている。しかもこれだけ広範囲に亘って、寄生虫の標本並びに資料を集めている所は外には見られない。

開業という忙しい御仕事の中で、これだけのものを作り上げることは尋常の業ではない。個人の力でよくもこれだけの物を作られたものだと、改めて亀谷先生に敬意を表した。

日本では大学でも、研究所でも、博物館でさえも広範囲の標本類がそろっていて、しかも整理されているところはない。皆片寄っている。その為に寄生虫全般に亘って見聞したい人は、日本中を歩き廻らなければならなかった。ところがこの寄生虫館によって、内外の学者は勿論、一般の人達も、ここへ一歩足を踏み入れることによって、日本のみならず諸外国の寄生虫の標本までも見ることが出来、それらに関する知識を吸収することが出来る様になった。誠に喜ばしいことである。寄生虫学を専攻している私は、この目黒寄生虫館へ、出来るだけの標本や資料を提供して、これをもり立ててゆく責任を感じている。寄生虫学各分野の先生方が、今日まで絶大な支援をして来られたのも、恐らく私と同様の気持ちを持たれたからだと思う。日本の寄生虫学の為に、目黒寄生虫館のはてしなき発展を祈るものである。

(医博、東京医歯大教授、本館嘱託)

杉靖三郎博士来館

1月19日東京教育大杉靖三郎教授来館、館長の案内で陳列室を参観された。

都衛生局予防部高橋課長来訪

1月26日予防課長高橋恒夫博士は課員1名同道参観され運営につき好意ある助言をされた。

文献寄贈

- 京都府立医大、医動物、長花操教授から……………
- 小林晴治郎博士古稀祝賀記念誌他 86 篇
- 徳島大、病理、山口富雄教授から……………
- Studies of Gnathostoma in Shikoku 他 33 篇
- 鹿児島大、第2病理、阿部康男教授から……………
- 鹿児島大学はぶ研究会報告集他 21 篇
- 九大、寄生虫、加藤甫助教授から……………
- Paragonimiasis 他 89 篇
- 東邦大、薬理、伊藤隆太教授から……………
- Effect of various chemicals upon the growth of Daphnids 他 1 篇
- 予研、寄生虫、鈴木了司博士から……………
- 農村における便所の位置および構造について
- 長崎大、風土病研究所大森南三郎博士から……………
- フィラリアの中間宿主に於ける发育他 56 篇
- 伝研、佐々学博士から……………
- 日本の風土病、病魔になやむ僻地の実態 1 冊
- 名古屋市安藤亮博士から……………
- 肺吸虫の研究の思い出 3 篇
- 東邦大、薬理、伊藤隆太教授から……………
- ラッテの尿及糞中の Alkyl-resorcin の定量方法の検索とその実験成績他 1 篇
- 静大、保健、伊藤二郎教授から……………
- 静岡県下のカワナに寄生する吸虫類幼虫の研究他 1 篇
- 矢島重雄氏から……………
- 肺吸虫症について (II)主としてその害及感染について
- 座談会 司会小林晴治郎
- 岐阜大、森下哲夫教授から……………
- 人腸管寄生虫病の診断に関する新研究他 112 篇
- 吉田貞雄先生から……………
- 吉田博士祝賀記念誌論文篇、欽慕篇

標本寄贈

- 岡本正豊氏から……………
- 台湾ヒラマキモドキ、ヒラマキミヅマイマイ
- 横浜市野毛山動物園小原二郎氏

アシカの肺にあった線虫

動物および解剖材料寄贈

- 区内油面小学校から……………雄ウサギ 2
- 林業試験場鳥獣研究室長宇田川竜男理博ノウサギ 1
- 土岐善齋博士から……………ヤマドリ 1
- 高木氏から……………ヤマドリ 1
- 大磯野村美智子氏から……………ウズラ 1
- ヤマバト 2
- コジュケイ 2
- 溝口三郎氏から……………印旛沼のフナ
- モロコ他多数

出版関係

下記原稿鈴木博士の調整終り三協美術印刷会社へ回す但し第1巻及第2巻の一部として

- (1) 山下次郎 包虫症
  - (2) " 棘口吸虫
  - (3) 宮崎一郎 その他の肺吸虫
  - (4) 杉浦三郎 日本住血吸虫症の臨床、治療
  - (5) 森下 薫 一般篇 I
  - (6) " " II
  - (7) 森下哲夫 蛔虫の免疫
  - (8) " 鉤虫の免疫
  - (9) " 稀れに人体に見られる線虫
  - (10) " 鞭虫
  - (11) 佐藤八郎 糸状虫症の治療
  - (12) 岡部浩洋 テニア属条虫
  - (13) 小宮義孝 肥大吸虫
  - (14) 大鶴正満 毛様線虫類
  - (15) 嶺 哲夫 蛔虫症の外科的方面
  - (16) 岡部浩洋 日本住血吸虫
  - (17) 横川宗雄 肺吸虫
  - (18) 小宮義孝 日本住血吸虫
- その他については整備中

生物学同好会

1月19日開催杉靖三郎教授の生理学第1講があった尚本会の記事が朝日新聞、読売新聞にのってから俄然各方面から入会申込が殺到している。

短 信

12. 28 東京医事新誌に亀谷執筆「中川幸庵博士の御逝去を悼む」遺言により寄贈をうけた貴重なる標本三点についての記事掲載。

## 条虫の人体感染、特に最近経験した 広節裂頭条虫に就て

亀 谷 了

私は毎日相当数の患者の診療にあたっているのであるが、条虫の患者に接する機会はそれ程多くはない。これらの感染例についてのべてみたいとおもう。但し集団検便の際に発見された条虫患者にはふれないことにする。

一番多く遭遇するのは無鉤条虫である。料理屋の調理人とか、韓国人によくみる。従って展示標本には美しい虫体が豊富にあって参観人の注目するところとなっている。

戦後はしばしば縮小条虫の感染例をみた。多くは子供である。これは戦後の非衛生的な環境がもたらした一時的の現象であったようで、最近では稀れにしかみられなくなった。

萎小条虫は学校検便で発見されたといつて駆虫を依頼されることが時々ある。患者の自覚症はそれ程ないのが多かったが、稀れには相当の症状を訴えるものもある。

有鉤条虫は日本ではまだ1例もみたことがない。満洲では集団で感染した例もあったし、奉天の北市場で露店で豚肉を売っているのにピッシリ嚢包があつてもわず足をとどめたこともあつた。人体有鉤嚢虫症も満洲では時々みることができた。最後に引揚げる直前親しくしていた中国人から皮下の小結節の処置について相談をうけたことがある。帰国してからは、私の友人の大陸から引揚げた人にこの嚢虫症を発見した。そしてその皮下から嚢包をとりだして立派な標本をつくることのできた。この手術にあつて感じたことは、確かに結節をふれるとおもつて切開しても、出血や結締組織のために容易に嚢包を発見することが困難であつたことだ。この人は当時は脳症状も訴えていたが最近では全然そんなこともない。

瓜実条虫の人体寄生例もみた。これは幼児であつてその家の飼猫がこれと同じような虫体を排出していたというから、恐らくはネコのノミを介して感染したのであろう。この患児はとうとう駆虫に來なかつたから完全な標本はできなかつたが、片節だけは保存してある。

広節裂頭条虫は、終戦後奉天に留用されていた時、ソ連兵に発見した。彼はフィンランドのリガ出身の無電技師と称していた。駆虫されたあとで大きなロシアパンを御札にもらつた。

最近日本内地で感染した広節裂頭条虫の症例に遭遇して、駆虫を試みた。そのことを少し詳しく記録しておきたい。

患者は68才の男子である。職業は或る会社の重役である。患者の記憶ではマスを生食したのは34年6月頃醒ヶ井(滋賀県)のマスの養殖場でニジマスをしたた

か食べたという。マズしも食べたが他の調理法でも色々出されて悉く平らげたという。それから後にはマスもサケも記憶がないというから多分その時に感染したものであろう。初めて虫体の排出に気付いたのは11月の中旬であつたというが、恐らくはそれまでにも出ていたに違いない。少くとも排卵はしていたことであらう。11月中旬に約1米の虫体を持参して外來を訪れた。

第1回の駆虫は12月14日に行つた。

Rp 硫苦 25g……午後4時服用。  
硫苦 15g……午後10時服用。  
アテプリン5錠投与、1錠づつ5分間隔で服用……翌朝6時。  
硫苦 25g……午前8時半。

同日の夕方虫体がではじめた。5m位でた所で辛棒しきれずに切りとってしまったという。無論頭節には至らなかつたわけである。

第2回駆虫は12月26日に行つた。

前処置は前回と同じであつたが、今回はアテプリンを10錠投与した。そして2錠づつ5分間隔で服用せしめた。当日は水様下痢便を多量に出したが虫体は全然含まれていない失敗したかとおもつていたら翌朝の固形便に虫体が巻きついて出てきた。この大量の固形便を丁寧に砕いて水にとかし、細大もろさず虫体を拾つたら、半ば溶けた様な虫体片節が、ちぎれちぎれになって現われた。僅か1日後にこれ程破壊されたのはアテプリンの作用であらうとおもう。可なり細い部分もでているが頭部まで排出したかどうかはわからない。その後はまだ検便はしていない。

広節裂頭条虫のプレロセルコイドは私はまだ入手していない。先年北海道の養殖地をつぶさに調査された福井玉夫博士も、遂に入手出来なかつたといわれていたから、養殖場での感染は殆んど考えられぬとおもつていたら今回確かに養殖場で感染したとおもわれる症例に遭遇してしまつた。これは大変重要なこととおもうので記録にとどめ一般の注意を呼びたいとおもうのである。

### 特別展示バラサイト「鉤虫症」

都市においては次第に陰のうすくなつた鉤虫の問題も、一度び足を近郊にすずめると看過することのできぬ重大問題となる実情です。特に東京に隣接する埼玉、茨木等の県下には多数の感染者をみるのですから、これに関する智識の普及はやはり大切なこととおもいます。

今回は国立予防衛生研究所寄生虫部の厚意によって資料の呈供をうけ一般に展示して参考に供したいとおもいます。

展示期間、35年2月—3月

展示品、鉤虫症の臨床、治療等に関する資料、標本、他動物の鉤虫等。

ニューオルリンズ通信⑤ 大島智夫

いよいよ年末となりました。このまとまらぬ小信も喜んで読んで下さる方がおられるのを知り感激して尚続けたいと思います。又この機会に貴重な紙面をこの歌文にさいて下さる亀谷博士にあらためて深謝いたします。

クリスマスシーズンとなり学生は帰郷し、人々は御馳走によんだりよばれたり、まあ年末気分は同じようなものですが、ビーバー教授は全く無関心というよりはたてで見ていると休むとかくつろぐという事にはおおよそ縁遠い方のように見えます。私の実験がクリスマスシーズンに少し忙しくなる破目になってしまい、これはきつと前から考えてこのシーズンをよけるように計画するのだったのにしまったことをしたと思ってビーバー教授に何気なく話しましたところ「君は lucky だ。クリスマスシーズンはこの研究室は実に静かで誰も邪魔しない。セミナーもなければお客もない君はこの期間充分に君の重要な実験を enjoy できる」とたたみかけて答えられ、その教授の顔つきで皮肉や冗談でなく本当にそう思っている事を知って全く驚いてしまいました。

新年度からメデイカルコースの寄生虫学がはじまります当大学の医学部は南部最大といわれるだけに学生数も1学年130人であり、1人1人に約70枚のスライドを用意してスライドボックスにおさめておくのは並大抵でない事です。

総計1万枚近いプレパラートを準備してあるだけでも他の大学のちょっと真似できない事でしょう。それに実習材料について、何時ナナ糸虫の実習をするその時の感染したマウスの用意は誰々が責任を持つ、そのためには何日に感染させてと事前のスケジュールは教室員が連日集って周到に計画しています。貸与するスライドボックスの整理画で5、6人の PHD の学生がまる3日かかっていました。

教育にはやはり大きな労力と時間をさいているようです、こちらに来る前にアメリカでは教育と研究は分離されつつあり、大学はむしろ教育技術に重きをおいているように聞きましたがここではやはり両方どちらともいえぬ程重点をおいているようです。それでこそ熱帯病といえバテレンといつて全世界の熱帯から学生が遠路はるばるくるだけの事はあるのでしょう。

私は9月末から約3ヶ月ポストグラデュエイトのコースで Dr. ビンバーの蠕虫と Dr. イエガーの原虫のコースをとって見ました、たった3ヶ月で驚いた事にクレイグ、ファウストの教科書に出ている標本は殆ど見る事ができました。今まで写真と活字だけでうろおぼえに知っていたものをこの眼で見る事が出来たのは幸でした。

アメーバ赤痢の場合には隣のチャリティホスピタルに患者が用意してあり一人一人直腸鏡で潰瘍を実際に観察し、粘液をとって動くアメーバを検鏡するといった具合です。教育は学問を育てる母でありこれを冷遇してはならぬと思いました。(公衆衛生院、医博)

目黒寄生虫館建設記録 ⑨

30.10.2. ……いよいよ旧館の取り壊し作業がはじ

められた。雨にさまたげられながら屋根がはがされ、柱は倒されて、無残な姿となり、やがて14日には完全に土台石まで掘りだされてしまった。

10.21. ……足場が組まれ、30日には鉄筋がたてられた。基礎が深く掘られ。

11.1. ……からコンクリートが流れはじめた。私は玄関の柱となる地の底に、祈りをこめて3種類の寄生虫を埋めた。

11.10. ……床のコンクリートうち。

11.17. ……壁や天井のワク板がはられた。

11.30. ……小野田レミコンが間断なく運転されて、一勢にコンクリートが流し込まれた。

すまじいエンヂンの唸りを耳にしなが、多年の望が目の前に実現していくのに目頭がにじんできた。

12.3. ……こんどは二階の鉄筋の準備がはじめられ14日には高くてたてられた鉄柱からコンクリートが流し込まれた。当日、柴田社長が自らゴム長をはいて、セメントを浴びながらショベルをとられた姿は忘れることができない。

12.19. ……壁板がはがれガラン洞の一階陳列室が出現した。

12.23. ……窓わくが入り、屋上の整理がはじめられた。こうして年内にはほぼ形体が整ってきたのである

この期間中にもいろいろの助言が多くのの方々から与えられたのであった。

9.30. ……Hamburg, Tropicinstitut, の Dr. W. Minning より来信あり協力を申し出られた。

10.6. ……岡本豊太郎さんから永年のヨーロッパ生活のお話をきいた。そして各都市にある小規模の Museum について話された中にこんなのがあった。それは或る陶芸家が亡くなったあと2人の姉妹が全財産を傾けて Museum を作っていたという。金が切れると工事は雨ざらしで中断されたが、遂に永年かかって立派なものを完成したというのである。私はこのお話にひどく感動した。こんな企てが日本の各地に行われたら、どれ程世の中が美しく楽しくなるであろう。そしてこんな有効な金のかい方はあるまいと思った。

10.16. ……斎藤惣一先生を訪ねた。ロンドンの熱帯病研究所の話をきき Ronald Ross が印度で蚊がマラリアを伝播するのを発見した時、まつ神に捧げた、彼は信仰深き学者であった、と語られた。

10.17. ……青ヶ島から便が送られてきた。早速検便にかかり、多くの寄生虫が発見された。

10.20. ……鯨類研究所から鯨の寄生虫を多数いただいた。

10.31. ……井上征五郎氏を訪ねて家畜の寄生虫の話をきいた。

11.9. ……世田谷の日大農獣医学部を訪ねた、小野谷口両教授にお会いして多数の標本をいただいた。

11.24. ……日本郵船村上船長が帰朝されてロンドンの Welcome M. M. の話をおきした。

11.29. ……一同集まって陳列室の構想をねった。そしてパネルの内容を検討して、原虫、吸虫、糸虫、線虫、鉤頭虫、昆虫、薬品に大別し、それぞれの割当をきめた。最も重要なものを、最新寄生虫病学、第1巻日本の寄生虫(森下薫博士)より選ぶことにきめた。その後に変化はあったが、大体は予定の如く完成したのである。

11.27. ……公衆衛生院に横川宗雄博士を訪ねた。パネルの配列について意見をきき大変参考になった。その後は公衆衛生院では斎藤潔院長、大島智夫博士、久保秀史博士その他の方々から随分お世話になっている。(亀谷)